

KM Report

Knowledge
Management
Society of
Japan

VOL. **2**

1998 SEP



CONTENTS

ご挨拶
理事長

第一回 年次大会
大会委員長（副会長）

研究会レポート

ピータ・ドラッカーさん宅を訪問して

KM 関連図書のご案内

役員

インフォメーション
学会賞のご案内

ご挨拶

理事長 森田 松太郎

日本ナレッジ・マネジメント学会が平成10年2月に設立されてから早いもので既に半年が経過いたしました。この間、日本の政治経済の状態は戦後始めてと言える程不安定な状態をしめています。政治においても、また、経済においても将来に対する明確な指針を示すことが一番重要な時期であると思います。

先進国の産業は、マヌファクチュアから知的サービスの産業へと急速にシフトしつつあります。21世紀におけるメジャーな産業は価値を創造できる知的サービス産業となるでしょう。製造業はより以上に顧客に受け入れられる、付加価値の高いものになっていくに違いありません。人間の持っている能力の評価が、今以上に大きくなるでしょう。

これからは、ますます変化の激しい時代に入っていくに違いありません。変化の激しい時代には、その変化について行けない企業は社会から脱落していくことになります。その事は19世紀の産業で20世紀の変化についていけなかったものが社会から消えていった事によって証明されています。

一方、変化はチャンスでもあります。チャンスをうまく掴むことが出来れば企業は急速に成長し、業績を伸ばすことが出来ます。我々は、その良い例をビル・ゲイツのマイクロソフトとかGEファイナンスに見る事ができます。つまり、極端に言えば変化の多い時代は、チャンスが転がっていると言えます。

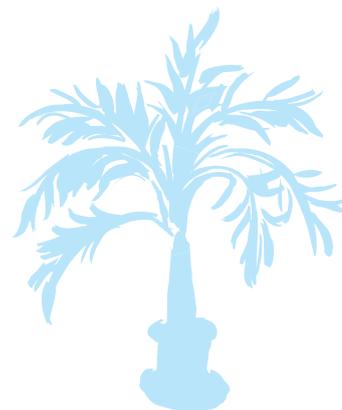
これからの企業経営は、この激しい変化の時代にうまく対応して行かなければなりません。企業内外におけるナレッジをうまくマネジし、かつ、シェアリングの上、企業内の人材の能力をレベル・アップしなければならぬのです。つまり、ナレッジ・シェアリングの実践です。

お蔭様で、当学会の加入者も次第に増加し、発会のときにご承認頂いた法人30社、個人100人を超える事ができました。研究会の方も、順調に推移し毎回活発な論議が行われております。これも、学会員の方々のご熱意のたまものと感謝いたします。

学会の運営についてサジェションがあれば遠慮なくお聞かせください。



(森田理事長とクレアモント・ピータードラッカー氏自宅にて(1998年6月29日))



日本ナレッジ・マネジメント学会 第一回年次大会の開催について



大会委員長 大野 剛義
さくら総合研究所 代表取締役社長

本年2月、日本ナレッジ・マネジメント学会が設立され、日本におけるこの分野の研究も本格化しました。研究会の活動も、内外の先進事例の研究からスタートし講師の先生方、参加者の方々の協議も盛況の中、熱心におこなわれています。

今般、第一回目の年次大会を開催するにあたり、これらの研究・協議の成果を、広く会員の皆様とともに共有し、同時に会員の方々の種々の研究や成果を共有することを目的とし、企画しました。現在の日本の、そして世界の関心事を踏まえ「グローバル時代における知識と人材活用」の統一課題を設定しました。

会員の方々からの積極的なご応募もいただき、事務局にて慎重に選考いたしました結果、発表プログラムも下記のとおり決定致しました。皆様方のご参加・活発な協議をお待ち申し上げます。

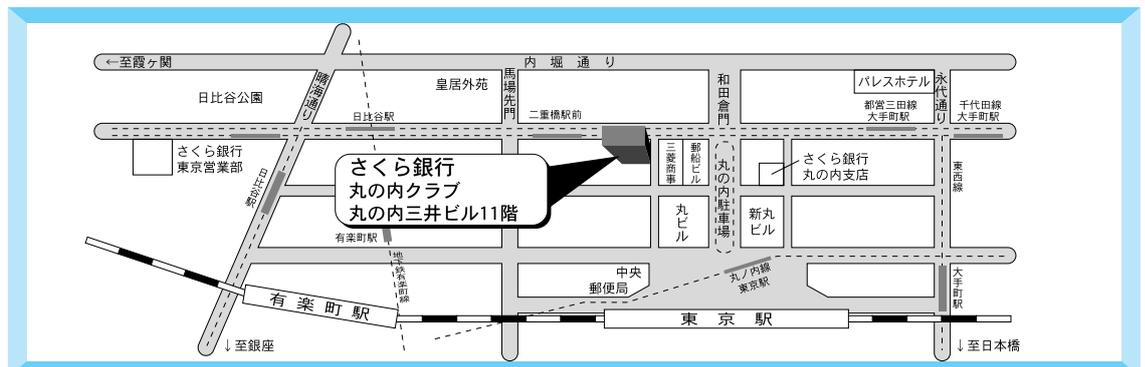
本件実施にあたり、日本ナレッジ・マネジメント学会事務局の方々の熱心なご対応に心から感謝申し上げます。

第一回年次大会（9/21）アジェンダ

10:00 ~ 10:10	開会の辞	学会会長 奈良 久彌（三菱総合研究所）
10:10 ~ 10:20	開会宣言	大会委員長 大野 剛義（さくら総合研究所）
10:20 ~ 11:20	第一報告者	一條 和生（一橋大学）
11:20 ~ 12:20	第二報告者	川島 文人（アーサーアンダーセン）
12:20 ~ 13:20	昼食	（この間、理事の方は臨時理事会を開催します）
13:20 ~ 13:35	臨時総会開催	（森田 松太郎 学会理事長より報告）
13:35 ~ 14:35	第三報告者	野村&亀津（富士ゼロックス）
14:35 ~ 14:50	休憩	（15分）
14:50 ~ 15:50	第四報告者	加藤 重正（千葉夷隅ゴルフクラブ）
15:50 ~ 16:50	第五報告者	木山 晋哉（AMR Media Quest）
16:50 ~ 17:00	総評	学会専務理事 高梨 智弘（日本総合研究所）
17:00 ~ 17:10	閉会の辞	学会副会長 花村 邦昭（日本総合研究所）
17:10 ~ 18:10	懇親会	

以上

会場（さくら銀行 丸の内クラブ）



研究会レポート

(座長：一條 和生 一橋大学助教授、学会専務理事)

1. 研究会のゴール

アウトプットは色々あると思うが、新しい「知」のマネジメント、コンセプト、アプリケーション及び実践の型を考えていきたい。多様なメンバーとそれらをどう運営していくか。「知」を組織で共有するためのアウトプットの型「justify true believed」つまり、最初にbelievedがあり、それはtrueであり、justifyという組織の正当性認識度となる justification criteria を表現すると思います。

ゴールは、世界に向けて発信していくことです。

2. 研究会のG P R I

G R P Iとは G : Goals (目標)

R : Roles (役割)

P : Process (プロセス：段取)

I : Inter person relationship (人間関係)

G : 叢知を結集してKMを理論的・実践的に完成させ、日本だけではなく世界へ広げる。グローバルな思考をもって、KMについてベスト・プラクティスを共有しながら、理論を構築し、提言を世界へ発信することです。

R : 座長は単なるファシリテーター(推進役)であり、全員が研究会のアクティブなメンバーである。全員が持つ様々な知を共有し、知を統合する場です。すなわち、この研究会の場こそがKMの実践の場なのです。

P : 研究会の開催・研究会のフォローアップなど、研究会の進め方を決めていきます。

I : チーム活動として仲良くやりたい。

3. これまでの研究会活動

第1回 平成10年4月25日 13:30 ~ 16:00 軽子坂MNビル 出席者52名：座長的一条先生から、「Knowledge Manegementは流行か、本物か」とのタイトルでプレゼンテーションがあり、特に現在の米国におけるKMの実状についてお話いただいた。質疑応答に続き、今後の本研究会における運営方針などについて話された。

第2回 平成10年6月27日 13:30 ~ 16:30 軽子坂MNビル 出席者51名：KMの事例として、研究会メンバーの以下3名からそれぞれ報告がありました。

岡 博大(慶応義塾大学) アーサーアンダーセン、エーザイ、ブーズアレンの事例報告

亀津 敦(富士ゼロックス) 富士ゼロックスの事例報告

川島 文人(アーサーアンダーセン) アーサーアンダーセンの事例報告

報告後、活発な質疑応答があり、本研究会の分科会開催に向けて検討する運びです。

ピーター・ドラッカーさん宅を訪問して

森田 松太郎

1998年6月29日かねてから約束のあったドラッカーさんのクレアモントの家をたずねた。クレアモントはロスアンゼルス以南約1時間半のところにある町である。静かな住宅地という雰囲気を持った町であった。約束は午前11時から3時間であった。

ドラッカーさんは既に90歳の高齢であるが、少し足と耳が不自由のようであったが大変元気で我々夫婦を温かく迎えてくださった。

お話はまず官僚制度のことから始まった。彼は官僚制度の弊害と所謂大企業病についてしきりに述べられた。彼の官僚嫌いは有名であるが、どうも官僚制度の弊害については、強い信念を持っているようだ。組織は、管理可能なサイズにうまく分割し、それを機能的にマネジする事が大切という事だ。

我々の学会の知識という事について聞いてみた。クレアモントの前にシカゴでアーサー・アンダーセンのナレッジ・スペースの責任者であるボブ・ヒーブラー氏と会い彼のナレッジについての見解を聞いていた。ヒーブラー氏は"Knowledge is information that has Value"と云っていたのでその事について聞いてみた。

ドラッカーさんは、基本的にヒーブラー氏の見解に賛成であると云った。しかしドラッカーさんは私

の意見は次のようだと云った。

"Information is data endorsed with meaning and knowledge is information put to work" 確かに、ヒーブラー氏とドラッカーさんとは少し表現に違いはあるが基本的には同じようである。ドラッカーさんによれば働かない情報は知識でないという事になる。両氏とも知識はビジネスに限定して使っている。ついでに知恵について伺ってみた。かれの見解では知恵はむしろ哲学あるいは宗教上の概念ではないか、ビジネスの世界では使いにくいのではないか、私には分からないという事であった。

現代はあらゆるシステムつまり従来型のシステムは大きく変わるだろう。例えば、銀行のシステムつまり預金を集めてそれを貸すといった様な単純な銀行業務は多分21世紀には生き残れないのではないかと、しかしアメリカにおいても大多数の人はこの事に気がついていない、ごく一部のビジネスの人が気がついていてだけだと云っていた。

現在、この10月にクレアモントでナレッジ・マネジメント学会のメンバーを中心にドラッカーさんを囲んでの1日セミナーを企画中である。そのせつ、またドラッカーさんの示唆に富んだお話を聞くことができるのが楽しみである。

Information

ドラッカーさんを囲む会の企画

年 月 日：平成10年10月14日出発、10月19日帰国
場 所：アメリカ カリフォルニア州 オンタリオ マリオット エアポート ホテル
時 間：午前10時から午後4時
費 用：約60万円
講 師：ピーター・ドラッカー氏
備 考：ドラッカー氏を囲む会はAコースとし、その後シカゴとウイリアムスパークで開かれるアメリカ生産性品質センターのナレッジ・マネジメント大会にも出席するコースはBコースとする。

なお、詳細については、別途ご案内いたします。

KM 関連図書のご案内(第 2 回)

1. 未来組織のリーダー F.ヘッセルバイン他 ダイヤモンド社(98/7)

P.ドラッカー財団の「未来シリーズ」の最初の本である。明日のリーダーシップ、組織、変化、イノベーションについて世界最高かつ最新の頭脳を提供することを目的としたシリーズで、その期待を裏切らない。各章ごとに適任者が執筆している。「リーダーシップとは、学びとるべきもので、学びとることのできるものである」と標している。

2. イノベーション経営 R.カンター他 日経BP社(98/6)

今話題の企業ファイザーをはじめ、3M、デュポン、GE、ラバーメイドの先進5社を対象にした継続的イノベーションに挑戦する姿を、他社との比較を含めて紹介している。いまや創造性を重要視する組織はパーチャルな大学のようなとも形容する。

3. バリュー経営 一條 和生 東洋経済新報社(98/4)

「魅力ある企業、つまり哲学をもち、知力にあふれ、生き方を真摯に問い続ける企業こそ、21世紀に向けた企業の理想像である」と断じ、2つの企業の開発事例から組織による「超近代の知」の創造を首尾一貫して持続的に行う為の「イネーブラー(促進要因)」を「理念」「プロセス」「組織構造」の3つに分けて説く。(日経より)

4. Best Practices R.Hiebeler他 Simon&Schuster社(98/2)

アーサーアンダーセンが6年間で3千万ドルを投資して調査・収集したグローバルベストプラクティスから40ケースを紹介している。市場と顧客の理解、開発段階からの顧客の巻き込み、顧客への配送とサービス、顧客情報のマネジメントなど各ケースを活用出来るよう示唆に富んでいる。

5. 破天荒 K.フライバーグ他 日経BP社(97/7)

サウスウエスト航空を成功に導いた3つの実践とは(1)とっぴな発想で既成のビジョンをぶち壊そう(2)勇気を奮って顧客を楽しませ、心のこもった対応をしよう(3)会社の最も大切な財産は、従業員と彼らが生み出す社内文化であることを忘れるな3つである。5年間の年平均で従業員1人当たりの顧客数2400人という米航空業界最大の生産性を誇ることと、前者3つの実践がアラインするところが米国が。

6. 知的創造型労働と人事管理 労働大臣官房政策調査部編 大蔵省印刷局(96/12)

全産業分野1255社からの「創造的」な部門や社員、またその責任者とはいったいどんな考え方で創造性と仕事を対峙しているか全353頁のアンケート結果と分析。

7. 経営品質革命 高梨 智弘 東洋経済新報社(96/9)

商品・サービスの品質競争から「経営の品質」競争へ。大競争時代を勝ち抜くための新しい経営哲学と方法を、「ベンチマーキング」を決め手に大胆に提示する。

(F・K)

役員

< 1998年8月1日現在 >

会長 奈良久彌 (株)三菱総合研究所 取締役会長)
副会長 大野剛義 (株)さくら総合研究所 取締役社長)
副会長 花村邦昭 (株)日本総合研究所 取締役社長)
評議員会議長 亀井正夫 (住友電気工業(株) 相談役)
理事長 森田松太郎 (朝日監査法人 相談役)
副理事長 嶋口充輝 (慶応義塾大学 教授)
専務理事 高梨智弘 (株)日本総合研究所 理事)
専務理事 山内悦嗣 (アーサーアンダーセン 日本副代表)
専務理事 一條和生 (一橋大学 助教授)

評議員

唐津 一 (東海大学開発技術研究所教授)
河村 有弘 (日経BP(株)専務取締役)
トム・ケリー (Knowledge Enterprise 理事長)
坂本 吉弘 (東京三菱銀行顧問)
椎名 武雄 (日本アイ・ピー・エム(株)会長)
*杉之尾 孝生 (防衛大学教授)
瀬戸 雄三 (アサヒビール(株)社長)
竹中 平蔵 (慶応義塾大学総合政策学部教授)
田中 榮 (株)大和総研社長)
張 富士夫 (トヨタ自動車(株)専務取締役)
野中 郁次郎 (北陸先端科学技術大学院教授)
橋本 綱夫 (ソニー生命保険(株)会長)
浜田 広 (株)リコー会長)
カール・ベッカー (京都大学総合人間学部助教授)
S・ホロニック (アーサーアンダーセンパートナー)
本間 雅雄 (情報通信総合研究所社長)
松本 滋夫 (日本電気(株)常務取締役)
峯嶋 利之 (日本電信電話(株)常務取締役)
宮原 明 (富士ゼロックス(株)副会長)
師岡 幸次 (東海大学工学部教授)
山本 信孝 (株)三和総合研究所社長)
*ボブ・ヒーブラー (アーサーアンダーセンパートナー)

理事

阿片 公夫 (株)NEC 総研社長)
生田 哲郎 (生田・名越法律特許事務所弁護士)
石崎 忠司 (中央大学商学部教授)
伊藤 進一郎 (住友電気工業(株)専務取締役)
上野 守生 (亜細亜証券印刷(株)社長)
内田 和也 (ポストン・コンサルティング・グループ副社長)
大久保 寛司 (日本アイ・ピー・エム(株)MQD 推進担当)
岡本 正耿 (株)MPC 代表取締役)
尾原 重男 (株)三菱総合研究所常務取締役)
加護 野忠男 (神戸大学経営学部教授)
木川 田一榮 (富士ゼロックス(株)知識デザイン開発担当部長)
国領 二郎 (慶応義塾大学大学院経営管理研究科助教授)
酒井 清 (株)リコー取締役)
境 健一郎 (かんき出版(株)代表取締役社長)
住田 笛雄 (センチュリー監査法人代表社員)
高橋 均 (株)NTTメディアスコープ代表取締役社長)
田坂 広志 (株)日本総合研究所取締役)
谷口 恒明 ((財)社会経済生産性本部産業経済開発本部部長)
*徳谷 昌勇 (成蹊大学経済学部教授)
*福沢 進 (日本電信電話(株)理事・経理部長)
村田 守弘 (ベッカー・マッケンジーパートナー)
矢澤 洋一 (日本経済新聞社事業局総務)
山田 英夫 (早稲田大学アジア太平洋研究センター教授)

幹事

浅野 純次 (株)東洋経済新報社代表取締役社長)
富尾 一郎 (朝日監査法人会長)

(* 次回の理事会で就任予定 / 氏名は五十音順)

information

学会賞のご案内 学会賞候補となる著作物を広く公募します。

当学会の学会賞は、学会の内外からこの1年間(10/1～9/30) 広くナレッジ・マネジメント分野において、社会・ビジネス・学会等をリードし、インパクトを与えた著作物に対して毎年贈られるものです。

当学会選考委員会及び当学会評議員会において選考され、表彰状と副賞として賞金が授与されます。

ここでの著作物とは、著書、論文、学会発表内容などです。

ただし、本年度だけは例外として、原則最近の著作物で単行本に限り公募の対象と致します。

現在、自薦・他薦を問わず受付中です。

推薦する単行本 一冊(原則、返却致しません) 推薦文(700～1000字内) 推薦者 略歴、連絡先
締め切り 平成10年10月31日 送付先・問合わせ 当学会事務局まで

年次大会の開催について

理事会において、当年度の年次大会は1998年9月21日(月)に(株)さくら総合研究所で開催することが決定しております。万障お繰り合わせのうえ、ぜひともご参加ください。問合わせは事務局へ。

研究会、部会の開催について

研究会がスタートしています。ご要望、問合わせは事務局へ。

当学会ホームページを開設致しました。今後共、機能充実をはかってまいります。(URLは表紙)

新会員を募集しています

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する人であれば、とくに入会資格を制限しておりません。学会の活動にご参加いただける方がいらっしゃれば、ぜひ参加を呼びかけてください。申し込みに必要な書類一式は、当学会事務局に用意していますので、必要に応じてご請求ください。

お申込み方法

「入会申込書」に必要事項をご記入のうえ、下記の当学会事務局宛てにお送りください。なお、法人は年会費100,000円(入会金なし)、個人は入会金5,000円、年会費5,000円を下記の銀行・郵便振替口座へお振り込みください。

申込書送付先：日本ナレッジ・マネジメント学会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル(株)日本ビジネスソリューション内
TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056

年会費振込先：

銀行口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会 理事長 森田松太郎

さくら銀行 日本橋営業部 普通 7072689 住友銀行 日本橋支店 普通 1085878

三和銀行 室町支店 普通 3884012 東京三菱銀行 東京営業部 普通 3412822

郵便口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会

日本橋三井ビル内郵便局 00120-3-12323

あしがき

最近、概念図で現されている絵が差異を感じさせないことが多く、E-Businessなども典型であろう。

概念図を支える優位性溢れる技術の塊を見抜く見識が求められる。この見識は人間の内なる頭脳と、その外側の仮の頭脳の相乗和で導かれる仮設が成立すれば、概念図はもっと有用となる。

川島



1998 SEP

発行日/平成10年9月1日

発行者/日本ナレッジ・マネジメント学会

編集人/石崎忠司

制作/(株)アイビジネスサービス

個人会員125名、法人会員38社(平成10年8月1日現在)

日本ナレッジ・マネジメント学会 事務局

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル(株)日本ビジネスソリューション内
TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056